

(主題名) 相手のための親切 B(7)【親切、思いやり】

(教材名) 「やさしいコウちゃん」『小学道徳 生きる力 5』(日本文教出版)

授業者 松岡 貴裕 教諭

提案授業のポイント

今年度、吉良川小学校では、「思いや考えを表現し、認め合い、学び合う児童の育成～友達との関わりを大切に、自己を見つめ、考えを深める道徳の授業実践を通して～」を研究主題とし、研究を進めています。そこで、今回の提案授業では、多面的・多角的に考えを深めるために、以下について提案しました。

「やさしいコウちゃん」と「新・やさしいコウちゃん」を対比させて板書にし、両者のよさや違いについて考えを深められる展開の工夫

その提案に基づき、①考えさせることは明確になっていたか、②ねらいにせまる発問になっていたか、という視点で模擬授業を行いました。



模擬授業の様子

◆教材文のコウちゃんの優しさに線を引かせ、「やさしいコウちゃん」と「新・やさしいコウちゃん」に分けて発表させた。両方のコウちゃんの同じところと違うところはどこか発問し、板書にまとめていった。

協議内容



【視点①】考えさせることは明確になっていたか。

- ・主題を示したり、線引きさせたりしたことで、何を考えたらよいか明確になっていた。
- ・行為と思いが混在して板書で出され、両者の優しさの違いが明確にならず深め切れていなかった。
- ・コウコの迷いに共感させたり、行動と思いを分けて表にまとめるグループ活動をさせたりするなどの工夫はどうか。

【視点②】ねらいにせまる発問になっていたか。

- ・発問が細切れで主要発問が分かりづらい印象があった。
- ・児童の思いや考えをもっとつなぎ、教師が説明せず、「本当？」など児童に返すようにしてはどうか。
- ・深めるところと、流すところの軽重をつけたらどうか。
- ・最後は、「自分だったらどう考えるか」に返して、自分を振り返って考えるようにすることが必要ではないか。

教師リードの授業スタイルから卒業し、児童主体の次のステップへ！！

講師：高知大学
森 有希 准教授より

◆発問を絞る

今回の授業展開であれば、大きい中心発問といくつかの切り返しの発問だけでも成立する。中心発問例として、『「やさしいコウちゃん」と「新・やさしいコウちゃん」の違いは？』と問いかけ、切り返しの発問例として、「最初のコウちゃんは親切ではないということ？」「いつも手を貸さずに見守ることが本当の親切？」「相手に感謝されなくてもいいの？」など問いかけて授業を進めていけば、児童の思考が深まるのではないかと。

◆子供を信じて子供に任せる

中心発問後、「どこが違うかを教えて」と、小黒板などを活用しグループで話し合いをさせる。教師は「どう思う？」「本当にそれでいいの。」「どうして？」と問いかけながら話し合いをコーディネートする。全体で、各グループの考えを交流し、「本当の親切」について深めていき、最後は自分を振り返らせる。

(参加者の声)



◆授業構成以外にも、発問、板書、切り返し、席の並び方まで多くのことを学ぶことができました。この学びの中から、児童の実態や自分の研究の方向性を考え、次の授業に生かしていきたいです。

◆「何を子供に任せるのか？」「どういう形で任せるのか？」というコーディネート力がこれからも求められていくと思います。道徳科だけでなく、他教科共に主体的、対話的で深い学びの授業を目指して、大きく授業スタイルを見つめ直す時期となっていると思いました。

◎森先生の新しい授業スタイルの提案に、参加者は「なるほど」「やってみたい」と熱心にメモを取っていました。白熱した協議や講話で、とても濃い学びの時間となりました。ありがとうございました。次回授業研究会は7月4日(木)です。講座を受け、どんな授業に変容するか楽しみです！ご参加をお待ちしています！